# 遠心性環状紅斑

慶應義塾大学皮膚科講師
**谷　川　瑛　子**
（聞き手　池田志孝）

**遠心性環状紅斑についてご教示ください。**

**82歳女性で、約３年前に下咽頭がんの根治術を施行され、その後経過観察で再発はないといわれています。約20年前に両前腕に環状紅斑が出現し、そのときは湿疹と診断され外用薬を処方され、10日間使用したが奏効を認めませんでした。最近、皮膚科医を紹介したところ、上記疾患と診断されました。がんの再発と関係のあるものなのかも含め、ご教示ください。**

＜大阪府開業医＞

**池田**　谷川先生、ちょっと聞き慣れない病名、遠心性環状紅斑についての質問です。約20年前に両前腕に環状紅斑が出現した82歳女性、３年前に下咽頭がんの治療をしているが、現在は再発がないということです。20年前に湿疹と診断されて、10日間外用薬を使ったけれども効かなかったということで、がんの関係もあったのでしょうか。最近皮膚科を受診したら、遠心性環状紅斑と言われたということです。まず環状紅斑とはどんな疾患なのでしょうか。

**谷川**　環状紅斑とは診断名ではなくて、いわゆる症状名、つまり環状を呈する赤いものがあれば、皮膚症状を含めて環状紅斑といわれています。大きく分けますと、環状紅斑の中には環状の紅斑がメインの疾患と、その次に病気そのものが環状の発疹を出す疾患、あとは環状を呈する疾患の、３つに分けられます。一番大事なのは、通常見えている、赤く出ている、遠心性環状紅斑は環状病変が主体となる病変のグループの中に入ってくると思います。

**池田**　遠心性という意味は、最初に小さな紅斑ができて、それが広がっていく。そして、中心は一見正常に見える。そういう理解でしょうか。

**谷川**　基本は小さい、例えば小豆ぐらいの大きさの赤いものが、ゆっくり

と広がって、真ん中は正常色、またはちょっと色がついている場合があります。そういうものを含めて言っています。

**池田**　けっこう動きのあるものも含まれるのですね。

**谷川**　比較的速いものと、ゆっくりのもの。あとは、出たり、引っ込んだりするのも一つの特徴であると思います。

**池田**　幾つもの疾患の集合体みたいなものということですけれども、どのような疾患が隠れているのでしょうか。

**谷川**　比較的環状を呈する病変ということでまとめて申し上げますけれども、一つは原因が調べてもわからないグループ、あとは悪性腫瘍を伴うグループ、それから膠原病、例えばSLEとかシェーグレン症候群、あるいは子どもに出てくる新生児エリテマトーデス、こういうときにも環状の紅斑が出てきます。あと、遺伝性の疾患で出てくることもありますし、ほかにはリウマチ性の疾患でちょっと出てくる場合や、ダニに刺されたあとに環状の紅斑が出現してくることもあります。

それ以外、日常診療の中で特に気をつけなくてはいけないのは、例えば体部白癬、いわゆるカビです。これも環状になることがあって、ほかの病気と間違えやすいです。

**池田**　たくさんありますね。代表的なものを紹介いただければと思います。

**谷川**　一番多く見られるのが、今回質問のあった遠心性環状紅斑だと思うのですけれども、これは先ほどお話しした、小さい紅斑から始まって広がっていくかたちになると思います。こういう症状を見たときに、環状紅斑で済ませないで、血液検査、あとその裏に隠れている病気、何かほかの病気があるかどうかを調べていくことが一番大切になると思います。

検査の方法には、例えば血液検査、あるいは内臓悪性腫瘍も含まれますけれども、一番診断の確定に役に立つのは皮膚生検です。ですから、環状紅斑を繰り返す患者さんを見た場合は、皮膚科専門医にみていただいて、皮膚の生検を１回行うと、診断にかなり役立つと思います。

**池田**　専門医を受診して診断、それと生検を受けるということですね。いわゆる遠心性環状紅斑はかゆみを伴うものなのでしょうか。

**谷川**　環状紅斑の中には多少かゆいものも含まれますけれども、一般的にはあまり強いかゆみ、例えばかゆくて眠れないというものはそれほど多くないと思います。多少かゆみを訴える方もいらっしゃいますが。

**池田**　気になるのが悪性腫瘍に伴う環状紅斑ですけれども、これはどのような特徴があるのでしょうか。

**谷川**　悪性腫瘍に伴うもので非常に特徴的な発疹を出してくるものの中に

は、いわゆる匍行性迂回状紅斑というもの、これは非常に特徴があります。よく言われるのは、木の年輪、もしくは縞模様のように輪をつくって、何重にもなって出てくるものがあって、比較的これはかゆいです。ゆっくり広がるという記載もありますけれども、比較的速いと書いているものもあります。これはほぼ100％、内臓の悪性腫瘍を合併するといわれていますので、こういう発疹を見たときは速やかに内臓のチェックを行うことが望ましいと思います。

**池田**　木の年輪、縞々に見えるのは、一つできたものが拡大しつつ、また中心から続けてどんどん出てくるために、さざ波状になっていくという理解なのでしょうか。

**谷川**　それでよいと思います。

**池田**　ということは、通常の遠心性環状紅斑では、１個できて広がっていって、中が治るために、そういう木の年輪様にはならないのですね。

**谷川**　通常はならないと理解していただいてけっこうです。

**池田**　ちょっと複雑な、特徴的な状態になるのですね。

**谷川**　はい。

**池田**　それである程度は鑑別できるだろうということですね。

**谷川**　ただ、先ほど申し上げた遠心性環状紅斑の中にも、最近、少し悪性腫瘍が合併することもあるといわれています。

**池田**　この質問ですと、下咽頭がんと書いているのですけれども、その確率は少ないと考えてよいでしょうか。

**谷川**　少ないと思います。

**池田**　あとでうかがいますけれども、鑑別診断としてリンパ腫があるということですけれども、普通の遠心性環状紅斑、あるいは匍行状の環状紅斑ですと、そこの部位にリンパ腫の細胞がいるわけではないのですか。

**谷川**　通常の匍行性環状紅斑といわれているものは、そこを取っても腫瘍細胞は見つからないことが多いといわれています。ただ、それを繰り返す方で、何回も取って、最後に見つかった報告はあります。

**池田**　非特異疹としてのリンパ腫と考えたほうがいいですね。

**谷川**　病理は基本はそうですね。そういう方が多いです。ただ、例えば乳がんの場合は、乳がんのところ、局所だけにいわゆる環状に出てくるケースがあって、これはちょっと匍行状とは少し違う、いわゆる環状紅斑で、皮膚を取ると乳がんの細胞が見つかります。ですから、生検はやはり大事だと思います。

**池田**　それは特異疹としての環状紅斑ですね。

**谷川**　そうです。おそらく皮膚科医から見ると、いわゆる環状紅斑というよりも、環状を呈しているがんの浸潤

と考えてもいい。それがたまたま環状に見えている場合があるので、そうするとその場所には、そういう報告は何例か続いてあります。

**池田**　すごく複雑ですね。単純に見た目だけでは全く診断がつかないこともありうるということですね。

**谷川**　隠れている場合がありうるのです。

**池田**　そういう場合にはしっかり生検を取って確定診断するのですね。

**谷川**　はい。

**池田**　そのほか、膠原病の合併として環状紅斑があるとうかがったのですけれども、どのようなものがありますか。

**谷川**　一番多く見るのはシェーグレン症候群です。こういう場合、環状紅斑のほかに、しじ型になっていたりして、あるいは盛り上がりがかなり強くて、皮膚科医が見ると、診断は比較的つきやすいのです。専門ではない医師が診るときは、環状紅斑と考えて、抗核抗体とか、あるいは抗SS-A抗体、抗SS-B抗体とか、そういう膠原病の関連の検査をしておくと診断に役立つと思います。

**池田**　その場合はあまりかゆみはないのでしょうか。

**谷川**　ほとんどかゆみはないと考えていただいてけっこうです。

**池田**　そういったものを含めて、なかなか鑑別が難しいということですけれども、先ほど白癬も鑑別診断に上がるとうかがいました。この場合はどういう診断が行われるのでしょうか。

**谷川**　白癬の場合はやはり環状になりますので、表面をよく観察すると、表面に白い、ちょっと皮がむけているような、鱗屑と私どもは申しますけれども、それを取って顕微鏡で見ると真菌が見つかります。それを検査すれば比較的簡単に診断はつくのですが、それをしないで、検査だけやっていくと、やはり紛らわしいことがあります。

**池田**　よく生検をしますけれども、生検で体部白癬の診断はできないのでしょうか。

**谷川**　可能です。診断する場合は、表皮の角層の中に菌体要素を見つけることができます。ただ、その前に皮膚をむいて顕微鏡で検査することで診断は可能だと思います。

**池田**　病理の際に、真菌要素を見つけるためには何か特殊な染色がいるのでしょうか。

**谷川**　染色の場合は、グロコット、パス染色が一番簡単にできます。それ以外は真菌を染めるグロコット検索などがありますけれども、この場合はパス染色です。

**池田**　パス染色で容易に見つかるのですね。今うかがうと、様々なものが含まれている環状紅斑、それも鑑別診断として感染症やリンパ腫も考えなければいけないということで、専門医に

診ていただいて、生検を取って、確定診断が必要になるのですね。

**谷川**　はい。

**池田**　ありがとうございました。